

しっぱい まな
失敗から学ぶ

しっぱい ほう
失敗した方が
いいものが
できるのだ



まちが
間違ったって
はずかしくない

やらないより

ほう
やってしくじった方が

せいちょう
成長する

失敗の経験が活きる

たいていの人が経験しているのですが、人生のいろいろな「失敗」。受験だって恋愛だって思い通りにはいかなかった経験があるでしょう。しかし「失敗」したときにどういう判断をし、その後の選択をどうするかが分かれ道ですね。僕なんか気が弱いから「失敗したら恥ずかしい」と思って、失敗しそうなことを避けてしまっていました。そんなの論外です。それで何事も一つも進歩できなかったのです。何しろはじめから避けているのですから。それでも思いっきり失敗してもやってみようとなった時にはかなり勇気があるのですけど、案外「失敗は怖くない」のでした。失敗の経験が活きて来るというのも経験ですね。「しっぱい」ってぜんぜんダメなことじゃあないのです。

大きな失敗が成功の積み重ねより大事なわけ

大きな発明発見をした人はたいてい、大きな失敗を経験しています。逆に言えば「失敗」が発明や発見を導き出しているのです。やるかやらないかの選択は結果が正反對です。成功だけして来た人なんてのはいないのですが、失敗ばかりの人もいません。「本気」なんです。無理して背伸びというのも失敗の元かもしれません。しかし、それでも大きな失敗が成功の基になっていることもあるのです。大事なものは「なぜ

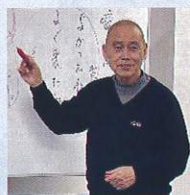
失敗したのか」「どうしたらいいのか」という視点の変換ですね。それは失敗の経験が活かされるのです。

視点、力点を変えるチャンス

なぜ失敗が怖くないか？失敗が役立つというのか？というのは視点や力点を変えるチャンスだからです。失敗の原因が分かると言うことはとても大事なことです。

では、なぜ「失敗」を恐れてチャレンジしなくなってしまうのでしょうか？人の目や世間評価に気をとられてしまいうからでしょう。そんなの怖くないとは言えませんが、評価を恐れず勇気を出して「失敗」もしてみたいいいのです。もちろん悪事や人への迷惑じゃあなければですが。

それでも、やっぱり失敗はしたくないし、それを恐れて実行する勇気はなかなか出て来ません。そこで次に出てくるハードルは、失敗も含めた「自分の実力」なのだという事です。視点を変え、力点を変えるチャンスなのです。



和田重良（山の茂吉）

1948年 小田原市生まれ。
東京教育大学 現筑波大学 卒。
1978年、「くだけたけい」をはじめる。神奈川県丹沢山中のくだけた生活舎において、多くの青少年たちと共同生活を実践してきたことを基盤に、これからの子どもたちの心を豊かに育むための提言を発信し続けている。
中日新聞に「ラム、SYD月刊『愛』」に掲載中。
「両手で生きる」『悩める14歳』など著書多数。